

先端ライフサイエンス研究拠点  
Frontier Research Core for Life Sciences

医学分野

Medical Field

特命助教 甲斐田大輔 Daisuke Kaida  
研究員 古賀 光徳 Mitsunori Koga

◆ 研究概要

真核生物の mRNA は、転写直後の段階ではまだ未成熟の状態であり、様々な転写後修飾を受けることにより成熟型 mRNA となって核外輸送され翻訳の鋳型となる。これらの転写後修飾は、転写とカップリングすることによりその効率が高まることが知られているが、逆に転写後修飾が転写活性に与える影響に関する知見はまだ少ない。そこで、当研究室では、哺乳類培養細胞を用い、転写後修飾の一つであるスプライシングの阻害が、転写活性にどのような影響を与えるか、さらにはその詳細な分子メカニズムを明らかにすることを目的とし研究を行っている。

◆ 総説

1) 甲斐田大輔：タイリングアレイによる mRNA 解析. 臨床検査, 55 : 854-857, 2011.

◆ 学会報告

- 1) 甲斐田大輔：スプライシング阻害によるトランスクリプトーム変化に関する研究. 第 34 回日本分子生物学会年会, 2011, 12, 13-16, 横浜.
- 2) 仲 健太, 古賀光徳, 大塚裕一, 米崎哲朗: RNaseLS 活性に必要な成分の同定. 第 34 回日本分子生物学会年会, 2011, 12, 13-16, 横浜.